



まちの魅力“再発見”シリーズ

No.7 「長応寺」

今月号は、起源を文明5年（1473）にまでさかのぼる、由緒あるお寺「長応寺」を紹介します。

長応寺は、大正2年（1913）に上幌延に移転し、その後火災による消失・再建を経て現在に至ります。

明治32年に法華宗総本山 本成寺住職、古谷日新ほか5名の出願により、明治32年11月に天塩郡ウブシ原野の国有未開地243万余坪の貸付けを受け「法華宗農場」が開設され、明治33年と34年で計112戸の小作人が入植し、幌延町の開拓に貢献しました。

また、長応寺には徳川家の側室「お徳の方」の位牌が奉られており、このお徳の方の命日にちなんで、毎年5月は「葵祭」が開催されます。葵祭では寺秘蔵の宝物が一般公開され、特に八幅にわたる「絵曼荼羅」が並ぶ姿は圧巻です。



十二月定例俳句会作品

幌延ほおずき俳句会

数へ日や列島の美味店頭に
 数え日や何か押さるる背中かな
 曆貼るや子等の集まる日を数へ
 数え日の忘れてならぬ貸借りは
 数え日や残る仕事の数多なり
 数え日や剥き海老遠き国より来

横山 貞雄
 熊谷千恵子
 富樫 堅一
 佐藤 光朗
 富樫とも子
 田中 徹男

秘境駅：安牛駅

～今月の駅ノート～

今月の「駅ノート」は、荒野にぼつんとたたずむ、安牛駅です。



外見は劣化が激しいですが、窓が健在です。

たまたま寄ったらすごい駅でした。
 車で日本3周。たまに駅舎巡り

FUGA

《取材記者・鉄道大好き T》

日本3周! とはうらやましいですね。幌延には何度ご訪問いただいたのでしょうか? 北海道に集中している貨車駅(通称ダルマ駅・ヨタロウ)の中でも、最近はリニューアルが施され下沼駅のような、ユニークな所も在りますが、このクラスは特別な存在かもしれません(浜風による影響でしょうか?)意外にファンが多いです。

ほろのべの裏窓

■冬本番を過ぎても寒さは相変わらずで、外に出ると手足の指先ががじかみませ。

■そんな寒さの中、広報の取材で、先日(はじめて「スノートレッキング」に参加してきました!スノーシューを履けば、長靴だった埋まってしまうような雪道も難なく歩くことができ、また、傾斜が急な道でも登りやすいことに驚きました(子どもたちも元気に登っていました)。

森の頂上に辿り着いた頃には体はずっかりぽかぽか。ごろごろしがちな日曜日の午前中に、鳥の鳴き声に耳を傾けたり、普段じっくりと見ることのない植物を観察したりして有意義な時間を過ごすことができました。

【総務財政課総務グループ】

●広報への「お問い合わせ」は、電話を優先してください。
 総務財政課総務グループ
 電話 511111 / 告知端末機 518811



男 1,212(-1)
 女 1,182(+7)
 計 2,394(+6)

(平成29年12月末日現在)
 ※()内は前月比 世帯数 1,257(±0)